

# 「ふるさと松川新聞」を発行しよう

指定校 3 年次 北安曇郡松川村立松川中学校 黒岩 理恵子  
授業実践者 宮澤 美帆子

## ◆はじめに

北安曇郡松川村立松川中学校は、全校生徒約 300 名、各学年とも 3 クラス編成の中規模校である。学校目標「誠実」のもと、「学習に打ち込む生徒」「言動を礼儀正しくする生徒」「励まし支え合う生徒」を生徒の目指す姿として、学校作りをおこなっている。松川村役場や教育委員会、村内にある安曇野ちひろ美術館など、地域と連携しての様々な教育活動を行っているのも本校の特色である。学校職員だけでなく、地域と手を携えての教育活動の成果としてか、20 年ほど前は県下でも荒廃した中学として有名であったが、現在は落ち着いた教育が行われている。

平成 22 年度より、学校教育法に規定された学力観と本校の教育課題に基づき、学力を広く重層的にとらえ、「基本的生活力」「基礎・基本の力」「関係形成能力」の 3 つの要素で規定した。(下表参照) 生徒がこれら 3 つの要素をバランスよく身に付け、自らの可能性と存在価値を見出したとき「やる気」が高まると考えている。「やる気」は、学校教育法に定められた学力観の中にある「主体的に学習に取り組む態度」に当たり、また、基本的生活力は「ことばの力」「生活習慣」「学習習慣」であり、本校生徒が「基礎・基本の力」と「関係形成能力」を身に付ける学びを支える力として位置付けている。N I E は、下表のように、「関係形成能力」を学ぶ場面として位置付けている。

学力の区分	「やる気」を高めた生徒の姿	学習場面
基本的生活力	・自分の思いをことばで相手に伝える生徒(ことばの力) ・時を守り、場を淨め、礼を正す生徒(生活習慣) ・毎日予習と復習を行う生徒(学習習慣)	・朝読書 ・部活動、清掃 ・フロンティア
基礎・基本の力	・知識や技能を身に付け、活用した学びの価値を自分のことばで説明できる生徒(教科の基礎・基本の力)	・共通学習Ⅰ ・共通学習Ⅱ ・フロンティア
関係形成能力	・「志」をもって行動し、他とのかかわりを深める生徒 (関係形成能力)	・総合的な学習 (ボランティア、N I E) ・生徒会活動

## (1) 校内での N I E 実践の広がり

N I E 実践指定校と奨励校の併せて 3 年間の実践で、3 学年や生徒会を中心に、以下のように N I E 活動の広がりを見せている。

- 毎日の生活記録のテーマを新聞から探し、自分の考えや感想を書く。(1～3 年)
- 生徒の新聞記事への感想を学級通信に載せた。(1～3 年)
- ハッピーニュース 2009 へ応募。2 名が書籍(心がぼかぼかするニュース)に掲載された。
- 長野県 N I E アドバイザー(信濃毎日新聞読者センター記者)による出前授業
- 教室に新聞コーナーを設け、生徒がいつでも手にとって新聞を読めるようにした。
- 読売新聞や信濃毎日新聞のワークシートを職員室内で回覧した。  
必要なワークシートを道徳や社会の授業で活用した。(全校)
- 信濃毎日新聞の投稿欄に生徒の投稿が掲載された。
- 生徒会では

- ・新聞作成ソフト（パーソナル編集長）による「生徒会便り」の発行
- ・「ちひろ美術館ボランティア」での生徒の活動を新聞形式にまとめ配布した。
- ・広報委員会による昇降口近くの掲示板への朝刊の掲示
- ・広報委員会が発行するクラス新聞を新聞作成ソフトで作成し、校内新聞コンクールを行い、文化祭の際に来校者に投票してもらっている。
- ・体育委員会によるスポーツに関する記事の紹介を、給食中の校内放送で行った。

## (2)平成 23 年度の実践内容(公開授業)

1 単元名 「『ふるさと松川新聞』を発行しよう」（全 30 時間）

2 授業学級 3 学年全員（A・B・C 組）

### 3 単元設定の理由

本校の生徒たちは、生徒会活動やボランティア活動を通して地域と深く関わった学校生活を送っており、多くの生徒がふるさと松川村に対して好意的な思いを抱いている。総合的な学習の時間においても、リンゴ摘花作業（1年～3年）、ちひろ美術館大花壇作業（1年）、「花咲く村づくりの会」と連携したプランターづくり（2年）など、実際に地域の方と触れ合いながらボランティア活動に参加することを重視してきている。これらの学習を通して、地域の方の姿から自分自身を見つめ直したり、地域に役立つことで自尊感情が育まれたりし、その中で日常生活での実践意欲や地域社会への参画意識が高まりつつある。反面、松川村について自分の地区などの限られた一面しか知らない生徒や、村外から松川に転居してきたため地域のことをあまり知らない生徒も少なくない。

一方、本校では、一昨年度からNIE指定校として各教科等の学習をはじめ様々な教育活動において新聞を取り入れた実践を重ねており、生徒たちは新聞を身近なものとして捉えている。総合的な学習の時間でも、本校の総合的な学習の時間のねらいである「関係形成能力」を育てるための中核的な学習として「新聞づくり」を3学年に位置づけ、実践を重ねてきた。昨年度までの実践から、「新聞づくり」には、各教科等で学んだ力を「生きる力」につなげ、「人間関係力」「情報活用力」「意思決定力」を高める価値があることが明らかになってきている。

そこで、地域とのつながりを感じながらも部分的な理解に留まっている生徒たちが、ふるさと松川に取材した「新聞づくり」に取り組むことで、地域への理解を深めたり、地域の様々な人々の生き方に触れたりすることができるのではないかと考えた。松川村に対して好意的な思いを抱いている生徒たちであるので、村内外に広く“ふるさと松川”を知って欲しいという意欲をもち、主体的に学習に取り組めるだろう。さらに新聞発行までの過程には、取材先の選定、取材の依頼、インタビューによる取材、記事の原稿書き、レイアウトづくり等、「人間関係力」「情報活用力」「意思決定力」につながる様々な要素が含まれており、友と協同して「新聞づくり」に取り組むことによって、これらの力が高まることも期待できる。

以上のように、生徒たちが、主体的・創造的・協同的に学習に取り組み、ふるさと松川を再認識することによって自己の生き方を考えることを願って、本単元を設定した。

### 4 単元目標

- (1) ふるさと松川に取材した新聞づくりに取り組むことを通し、地域への理解を深めたり、地域の様々な人々の生き方に触れたりしながら、自己を見つめ自己の生き方を考えることができる。

- (2) 友と協同して新聞づくりに取り組むことで、コミュニケーションをとりながら協同追究したり（人間関係力）、取材した情報を整理して活用したり（情報活用力）、目標を設定し自分の考えを明らかにして解決しようとしたり（意思決定力）することができる。

## 5 単元の評価規準

### 【人間関係力】

- ① 松川村に関する様々な事柄の中から新聞記事として取り上げる話題を選定し、それにふさわしい取材先を探したり、取材の依頼をしたりしている。
- ② グループの中での自分の立場や役割を自覚し、他者のよさや個性を理解しながら、協力して互いに支え合って活動している。

### 【情報活用力】

- ① 自分が担当した話題について取材をすることで、地域や人々のよさに気づき、よりわかりやすく伝えようという願いをもって、紙面作りに取り組んでいる。
- ② 取材した情報の中からグループのテーマに沿って重要事項を整理したり、グループのテーマに沿ってトップ記事を選定したりしている。

### 【意思決定力】

- ① 取材の依頼や、取材でのインタビューを通して地域の方と接することで、地域のよさや底に生きる人々の魅力をもとに、ふるさと松川を再認識している。
- ② 地域の特色やそこに生きる人々の生き方を深く知ることで、自分自身を見つめ、自己の志につなげて考えようとしている。
- ③ 学習の仕方や進め方を振り返り、自己の学びの意味を自覚し、学習や生活に活かそうとしている。

## 6 単元展開の概要

学習活動	学習内容	支援・評価
新聞の話題を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、インターネット、松川村史を使って、松川村の人、産業、工業、食文化、郷土料理、歴史、自然、観光などを調べ、自分が記事にしたい事柄について決める</li> </ul>	生徒の視野が広がるために、様々な情報を用意する。 人間関係形成力① 意思決定力①
取材の方法を学習しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃毎日新聞の読者センターの講師の方から模擬取材を通して取材の方法を学ぶ。 「私の文化祭」をテーマに記事を書くために、隣同士で10分間の取材しあう。</li> <li>・「5W1H」や数字に注意しながら聞く</li> </ul>	新聞作りのプロから指導を受ける機会を設ける。 情報活用力①
取材計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取材先に、電話で取材の依頼をする。</li> <li>・取材日、取材場所など相手の都合を聞きながら取材計画を立てる。</li> <li>・取材メモを作る。</li> </ul>	村の関係機関と連絡を取り、生徒たちが取材できそうな企業や人を紹介してもらおう。 人間関係力①

取材に行こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度しか取材できないので聞き漏らすことがないように積極的に聞く。</li> <li>5W1Hを基本に話を聞く。わからないことがあったら、「何」「なぜ」「どのように」を中心に聞く。</li> </ul>	<p>取材中に想像もしなかった新しい発見や疑問などを特に大事にしながら相手の話を聞くよう促す</p> <p>情報活用力① 意思決定力①</p>
記事を書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>取材した事を箇条書きにし、最も伝えたい事から順に番号をつける。</li> <li>「5W1H」、現在、過去、未来などの時制、文末の表現などに気をつけながら記事を書く。</li> </ul>	<p>国語科と連携を図り、記事の書き方について指導する</p> <p>情報活用力①</p>
レイアウトを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>トップ記事に何を持ってくるか話し合う。</li> <li>レイアウトを考える。読者に興味を持って読んでもらうためにどんな工夫ができるか友達と相談する。</li> <li>文字のフォント、紙面の色の統一など話し合っ</li> <li>て決める。</li> <li>写真を選んで、説明をつける</li> </ul>	<p>模擬新聞を作ることを通してレイアウトの方法について、信毎の講師から学ぶ機会を設ける。</p> <p>情報活用力②</p>
編集ソフト「パーソナル編集長」を使って紙面を完成する (印刷所にて印刷)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の記事をレイアウトの字数に合わせて仕上げる。</li> <li>自分の記事をワープロで打っておく。</li> </ul>	<p>締め切りまでに自分の仕事を終えられるよう促す。</p>
自分たちの取り組みを地域の方々に発信しよう  新聞作りの活動を見直そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな場所（公共施設、観光施設）に新聞を置いてもらうか検討し、電話にて依頼する。許可を得た場所に、新聞を持ってお願いに伺う。</li> <li>この活動を通して、感じたこと、考えたこと、これからの生活に活かしていきたいことをまとめる。</li> </ul>	<p>生徒の視野が広がるよう様々な情報を提供する。</p> <p>人間関係力② 情報活用力②</p> <p>活動を振り返るレポートを作成し、学んだことや心に残ったことなど話し合う機会を設ける。</p> <p>意思決定力①②③</p>

## 7 本時案

- ①主眼 3B新聞でレイアウトの方法を学んだ生徒たちが、担当の紙面レイアウトを考える場面で、記事の順位を決め、可動式のレイアウト用紙を使っていろいろなレイアウトを試したり、モデルの新聞を参考にしたりすることを通して、読者が読みたくなるようにレイアウトを工夫することができる。

②本時の位置（30時間中20時間）

前時：模擬新聞を使って、紙面レイアウトの方法を学んだ。

次時：見出しのフォントを考えたり、色を決めたりする。

③指導上の留意点

- ・前時の学習を想起しやすいように、3B新聞を掲示する。
- ・本物の新聞、沖縄新聞、レイアウトの見本など参考にさせる。

④展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援・評価	分	備考
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習問題：「読者が読みたくなるような紙面にするにはどうしたらいいだろう。」                 </div>			5分	カード  3B新聞
	1, 前時に作った3B新聞を使ってレイアウトの仕方の復習をする。	「記事の順位をきめたなあ。」 「写真を入れると興味を引くよね。」 「写真だけじゃなくて図も入りたいな。」 「あの班のレイアウトを自分たちも取り入りたいな。」	・前時に作った“3B新聞”を使って、レイアウトの仕方、注意点を復習する。 ・工夫点を取り上げて本時の活動に活用するよう促す。 ・最後に班のレイアウトの工夫点を発表することを伝える。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習課題：「記事の順位を決め、読者の興味を引くようにレイアウトを工夫しよう。」                 </div>				
展開	2, 自分たちの紙面のテーマを考慮して、記事の順位を決める。  3, 可動式のレイアウト用紙を使ってレイアウトを考える。	「どの記事をトップにしようかな。」 「せっかくだくさん調べたから、ぜひトップになりたいな。」 「この見出しは立ててみよう。」 「写真が縦だから見出しは横の方がいいんじゃないか。」 「見出しが他のとかぶっているから違う言葉に変えた方がいいんじゃないか。」 「これじゃ記事が入らないから、もう少し写真を小さくしてもいいかな。」	「一生懸命いい取材ができたので、ぜひたくさんの人に読んでもらえる紙面になるように工夫をしていきましょう。」 ・本物の新聞や、沖縄新聞をみながらレイアウトの参考にさせる。 ・写真にコメントをつけるなど、いろいろなレイアウトに注目させる。	30分	可動式レイアウト用紙写真
			<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                         読者が読みたくなるレイアウトになるように工夫している。(活動)                     </div>		

終末	4, 見開きのページ毎に発表し、左右のバランスをみながら工夫点を発表する。 5, 次時の予定を言う。	「あのレイアウトはいいな。自分たちの紙面でも使えないか。」「あれだとちょっと見づらいのではないか。」「それだったら、何か図を入れた方がいいんじゃないか。」	・工夫点を言わせる。良かったことを評価し、全体に返す。	10分	
----	---	---	-----------------------------	-----	--

#### ⑤公開授業の助言と指導 N I E 推進協議会より

- N I Eを通して何を研究して欲しいかは、3つある「教科や教科等の中での材料としての新聞活用」「情報についての力の育成」「新聞づくりを通して、文化や言語活動の充実」
- 沖縄新聞や今年度の取り組みは、上の3つを全て網羅している。これからしていただくまとめは、N I Eの目指す方向そのものとなっていくだろう。
- 実践を突き詰めていくと、カリキュラムができていく。長いスパンでの計画、生徒の実態にあわせながら修正をしていく。そういうものが大事であることが、指導案に表現されている。学習指導要領を具体的に表現したものが、今回の学習指導案であり、松川中の研究である。
- 「一人ひとりが伸びる場所がある」これは総合的な学習の時間の核心だ。
- 文化の充実としての新聞活動を通して、単元目標がしっかりと生徒の中に位置付くことだろう。
- 新聞社・地域の人々、あらゆる人々に対し、師として求めている。これは、松川中学校の教師の生き方が、そのようであるから、生徒もそうなるだろう。

### 8 新聞作りを通して

「3年生全員で、松川村を紹介する新聞を作ろう。」「観光パンフレットには載っていない松川の魅力を自分たちで発見、発信しよう。」をテーマに新聞作りに取りかかってからおよそ3ヶ月が過ぎた。新聞はまだ完成していない。表紙、裏表紙も併せて20面の新聞作りは容易いことではない。プロの新聞社の方に聞くと、新聞作りはだいたい一人が一つの作業を担当し、すべて分業制で作っているとか。松川新聞は、3年生全員がアポ取り、取材を行いほぼ全員が記事を書き、レイアウトまで考える。とても壮大な計画であったことをとても実感している。



N I E 公開授業レイアウト作成中

しかし、そういった活動の中で、目的意識と責任感を持ち、楽しみながら活動している生徒の姿が多く見られた。あったこともない大人に電話をかけ、アポイントメントを取る緊張した表情。正しく敬語を使い、真摯な態度で取材に臨む姿。紙面のトップを選ぶ話し合いでは、根拠を明らかにしながら友に自分の記事について熱心に語る姿。少しでも多くの人に読んでもらおうと、知恵を出し合い工夫しながらレイアウトを考える真剣な姿。普段の授業ではみられない、生徒の新たな一面を発見するのはとても楽しいことだった。ここでは、自分の苦手な作文を克服し、取材を通して一つの記事を書きあげたM生について紹介しようと思う。

○作文に対する苦手意識を克服し、ケーキ屋さんを紹介する記事を書き上げたM生



ケーキ屋のご夫婦とM生

M生は、体を動かすことは好きだが、学習には苦手意識があり、特に作文などの自分の思いを言葉で書くことに対しては拒否反応を起こすこともしばしばあった。毎日の生活記録は、ほとんど1行。主語、述語。感想一言。気が向けば2行になる生活記録であったが、提出されないことの方が多かった。国語の授業でもなかなか前向きに取り組めず、感想文はほとんどかけなかった。

そんなM生はさすがに、新聞を作ると聞くとすぐに拒否反応を示し、「えー、めんどくせ〜。」と顔をしかめた。し

かし、M生のグループで、松川村の食について紹介すると決まると、班で一番に学校のすぐ近くにあるケーキ屋を紹介する事を決めた。すると次に、電話でのアポ取りの練習にすぐに取りかかり、クラスで一番に取材の日時を決めた。緊張しながら電話をする様子、うまく電話の応対ができたあとのうれしそうなM生の表情は忘れられない。取材の日は、時間に遅れないように現場に向かった。店主の横でじっくりとほほえむ写真からは、取材がうまくいったことがうかがわれる。学校に戻ると、取材メモを見ながら、一生懸命原稿用紙に向かい記事を書くM生の姿があった。信濃毎日新聞の方から教えてもらった記事の書き方をしっかり思い出しながら、取材の時のことを思い浮かべ、店主の店に対する思いが読み手に伝わるように、何度も書き直しをしながらM生は、原稿用紙に向かっていった。

あの作文の嫌いなM生に、ここまでのめり込んで記事を書かせたものは何だったのだろうか。

松川中学校では総合学習で、人間関係形成能力、情報活用力、意思決定力を高めることを目的として新聞作りを取り入れている。新聞作りのすべての過程にはこの3つの力を伸ばせる要素が含まれる。しかし、M生をはじめ、多くの生徒が活動に嬉々として取り組んだのは、やはり、取材を通して多くの新しい出会いがあったからではないだろうか。学校生活だけでは決して出会えない、その道のプロ、一つのことを極めた人との出会いである。取材では、工場やアトリエ、店舗での緊張感を感じながら、その人の歩んできた人生、作品や商品への思いを聞いた。また、多くの経験を積んだ人生の先輩から中学生へのアドバイスもあり、自分の生き方と照らし合わせて考えた生徒も多くいた。その現場の生の声を、自分が誰かに伝えるという立場に立ったとき、多くの生徒の中に、きちんと伝えたい、伝えなければならないという使命感が生まれた



陶芸家の平林さんへの取材

のではないかと思います。今回の新聞作りで生徒たちは本物と出会い、心を揺さぶられた。これは学校生活だけでは決して出会えない感動ではないだろうか。

2月下旬、レイアウトや記事も完成し、パソコン上で紙面を整えた。一人でやるのならばそれほど時間もかからないのだろうが、みんなでやるのはとても大変だった。しかし、ああでもない、こうでもないと言いながら顔をつきあわせながら意見交換をする姿からは、一体感や団結が感じられた。

卒業間際の3月上旬、印刷され、完成した「ふるさと松川新聞」を手にとったとき、充実感や達成感で本当に感動した。新聞に協力してくださった方々や、なにより松川村の関係者の方々に感謝の言葉を

いただいた。3年間過ごしてきた仲間と作った大切な作品。大変なこともあったが、新聞作りをすることができて本当によかったと、心から思う。

### **(3)NIE実践を通して**

「ふるさと松川新聞を発行しよう」の実践からも明らかなように、本校の総合的な学習では、生徒の「人間関係力」「情報活用力」「意思決定力」に高まりが見られる。新聞づくりは、専門家や地域の方などに触れながら、実の場で教科等の学習を活用する機会を確保することである。

また、総合的な学習の時間でのNIE実践で見られた学びの姿は、教科等の学習においても成果として表れている。県の「PDCAサイクル支援事業」におけるP調査とC調査の結果を見ると、活用力を問う設問において本校の正答率は県平均を上回る結果となっており、学習した内容の意味を理解して活用する力が、本校生徒の中に育っていることがわかった。

今後の本校の課題は、生徒が自己の高まりを自覚し、学んだことの価値を自分のことばで説明できるまでに高めること、つまり「学びの意味化」を、新聞作りなどの総合的な学習の時間においても実現することである。「新聞ができた」「ボランティアで多くの人と触れあえた」等、具体的な経験による達成感や満足感だけではなく、自己についての「生きる力」を生徒に自覚させていきたい。